

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3107770号
(U3107770)

(45) 発行日 平成17年2月17日(2005.2.17)

(24) 登録日 平成17年1月5日(2005.1.5)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 5 B 25/02

F I

A 4 5 B 25/02

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 13 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 実願2004-5516 (U2004-5516)
(22) 出願日 平成16年9月15日(2004.9.15)(73) 実用新案権者 591044049
福太洋傘工廠股▲ふん▼有限公司
台湾台北県五股郷成泰路3段16号
(74) 代理人 100072349
弁理士 八田 幹雄
(74) 代理人 100110995
弁理士 奈良 泰男
(74) 代理人 100111464
弁理士 齋藤 悦子
(74) 代理人 100114649
弁理士 宇谷 勝幸
(74) 代理人 100124615
弁理士 藤井 敏史
(74) 代理人 100129126
弁理士 藤田 健

最終頁に続く

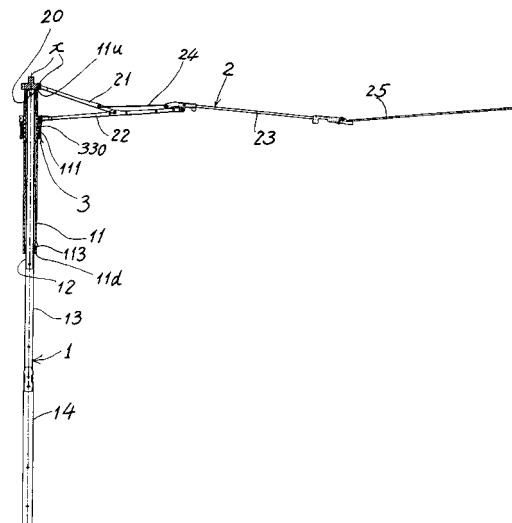
(54) 【考案の名称】 傘

(57) 【要約】

【課題】 確実に作動し得る傘を提供する

【解決手段】 傘は、縦軸Xを定める中棒1と、骨アセンブリ2と、ロック3とを有する。中棒は、上部ノッチ20に固定されるとともに中棒の周りに配置されるガイドスリーブ11を有する。ロックは、ガイドスリーブ上にスライド自在に取り付けられている。ガイドスリーブは、当該ガイドスリーブ上に形成される弾性突出部111を有する。ロックは、当該ロック内に凹所を形成してなるソケット330と、縦軸に向けてソケットから上方へ傾けられた傾斜部331とを有する。弾性突出部とソケットとが係合すると、傘を開いておくためにロックがガイドスリーブ上に安定して係合する。ロックを下方へ引き下げると、弾性突出部からソケットを外すために、傾斜部が縦軸に向けて内方に弾性突出部を押すことが許容されて、ロックが傘を閉じるために降下する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

縦軸を定める中棒と、ロクロと、前記中棒にピボット式に連結されるとともに前記ロクロにピボット式に連結される骨アセンブリと、を有する傘であって、

前記中棒は、当該中棒のトップ部の上部ノッチに固定されるとともに前記中棒の周りに配置されるガイドスリーブを有し、前記ロクロは、前記ガイドスリーブ上にスライド自在に取り付けられ、

前記ガイドスリーブは、当該ガイドスリーブ上に形成される弾性突出部を有し、

前記ロクロは、当該ロクロ内に凹所を形成してなるソケットと、前記中棒の前記縦軸に向けて前記ソケットから上方へ傾けられた傾斜部とを有してなり、

前記ガイドスリーブ上の前記弾性突出部と前記ロクロの前記ソケットとが係合すると、傘を開いておくために前記ロクロが前記ガイドスリーブ上に安定して係合し、

前記ロクロを下方へ引き下げると、前記ガイドスリーブ上の前記弾性突出部から前記ロクロの前記ソケットを外すために、前記ロクロの前記傾斜部が前記縦軸に向けて内方に前記弾性突出部を押すことが許容されて、前記ロクロが傘を閉じるために降下してなる傘。

【請求項 2】

前記中棒は、入れ子式に相互に連結自在となった上層管、中層管および下層管を有し、

前記ガイドスリーブは、前記上層管の周りに配置され、前記上層管と前記ガイドスリーブとの間に、前記中層管および前記下層管を引っ込ませて受け入れるためのスロットを定めてなる請求項 1 に記載の傘。

【請求項 3】

前記弾性突出部は、当該弾性突出部をなす部分の輪郭の一部に沿ってスリットをカットすることによって、前記ガイドスリーブに一体的に形成され、傘を開いておくために前記ロクロ内の前記ソケットと係合するように前記縦軸から外方に向けて突き出てなる請求項 1 に記載の傘。

【請求項 4】

前記ロクロは、シリンダ部と、フェルールと、円柱状カップリングとを含み、

前記シリンダ部は、前記ガイドスリーブにスライド自在に連結する中央開口を有し、

前記フェルールは、前記シリンダ部の上部に形成され、前記骨アセンブリの受骨をピボット式に連結し、

前記円柱状カップリングは、前記シリンダ部にスライド自在に連結するとともに前記シリンダ部の周りに配置され、傘を開くときに前記ガイドスリーブ上に形成された前記弾性突出部を係合するために当該円柱状カップリング内に凹所を形成してなる前記ソケットを有してなる請求項 1 に記載の傘。

【請求項 5】

前記フェルールは、前記中央開口の周りに配置され前記ガイドスリーブにスライド自在に連結する中央リングを有し、

傘を開くために前記ロクロを持ち上げると、前記中央リングが前記弾性突出部を内方に押し下げ、前記フェルールが前記弾性突出部を通り過ぎることが許容され、それから、前記弾性突出部が前記ロクロの前記ソケットと係合するように外方に弾性的に突き出て、傘を安定して開いておくために、前記弾性突出部の上に前記ロクロがロックされてなる請求項 4 に記載の傘。

【請求項 6】

前記シリンダ部は、円柱状溝と、底部フランジと、スロットとが形成され、

前記円柱状溝は、当該円柱状溝内に前記円柱状カップリングをスライド自在に連結し、

前記底部フランジは、前記シリンダ部の底部に形成され、前記円柱状カップリングが前記シリンダ部から下方に脱落することがないように前記円柱状カップリングの移動を制限し、

前記スロットは、前記シリンダ部を貫通して切開され、傘を開くと、前記弾性突出部が前記ガイドスリーブから外方に突き出て、前記ロクロの前記円柱状カップリング内に凹所

10

20

30

40

50

を形成してなる前記ソケットと係合してなる請求項 4 に記載の傘。

【請求項 7】

前記円柱状カップリングは、内方拡張部と、前記ソケットとを有し、

前記内方拡張部は、前記円柱状カップリングの内壁に円周上に形成され、前記シリンダ部の円柱状溝にスライド自在に係合し、

前記ソケットは、前記内方拡張部と傾斜部との間で、前記円柱状カップリング内に凹所を形成してなり、前記傾斜部は、前記中棒の縦軸 X の方に向けて上方かつ内方へと傾いており、傘を閉じるために前記ロクロを降下するときに、前記弾性突出部から前記ソケットを外すために前記弾性突出部を内方へ押してなる請求項 4 に記載の傘。

【請求項 8】

前記ガイドスリーブは、前記中棒を構成するために入れ子式に連結された複数の管の長さにはほぼ等しい長さを有し、前記ガイドスリーブは、その下部に形成された下部弾性突出部を有し、前記下部弾性突出部は、傘を閉じるために降下される前記ロクロと係合してなる請求項 1 に記載の傘。

する。

【請求項 9】

前記下部弾性突出部は、前記ガイドスリーブ上の当該下部弾性突出部をなす部分の輪郭の一部に沿ってスリットをカットすることによって、前記ガイドスリーブの下部に一体的に形成され、傘を閉じるために降下される前記ロクロと係合するように突き出てなる請求項 8 に記載の傘。

【請求項 10】

前記ガイドスリーブは、傘を開くときに前記ロクロと係合するための前記弾性突出部を前記ガイドスリーブ上に形成するのに適合した前記中棒上の上部ノッチからの長さを有し、傘を閉じるときに、前記ガイドスリーブと前記中棒の上層管との間のスロットの中に前記中棒の中層管および下層管を引っ込ませるために、前記弾性突出部から下方へ向けて突出する下部ガイド部分を有してなる請求項 1 に記載の傘。

【請求項 11】

前記ガイドスリーブの前記下部ガイド部分は、傘を開くために持ち上げられる前記ロクロを円滑にガイドするために、前記中棒の前記縦軸と第 1 の鋭角をなして外挿的に交差するように、前記上層管に接近するよう下方に向けてテーパが付けられてなる請求項 10 に記載の傘。

【請求項 12】

前記ガイドスリーブは、当該ガイドスリーブの底部に形成されるとともに前記中棒の前記縦軸と第 2 の鋭角をなして外挿的に交差するよう上方に向けてテーパが付けられ、前記上層管の外側管表面に接触するテーパ状底リムを有し、前記ガイドスリーブは、前記下部ガイド部分に切り欠かれた多数のカッティングスリットを有してなり、

前記上層管と前記ガイドスリーブとの間の前記スロットの中に前記中層管および前記下層管を引っ込ませる際、前記中層管あるいは前記下層管は、前記ガイドスリーブにおけるわずかに膨張している前記下部ガイド部分によって、前記スロットの中に受け入れられるように、前記テーパ状底リムによって円滑にガイドされてなる請求項 10 に記載の傘。

【請求項 13】

前記中棒および前記骨アセンブリは、一段の折り畳み傘あるいは多段の折り畳み傘である請求項 1 に記載の傘。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、傘に関する。

【背景技術】

【0002】

本件出願人は、長い耐用寿命を有する傘を提案した（2002 年 10 月 15 日出願、特

10

20

30

40

50

願 2002-300722 (特開 2004-49865) 参照)。この出願で用いられている部材番号をカッコを付して引用して、先に提案した傘を概説する。この傘は、中棒に取り付けられたスプリング式の留め具 (5) と、ロクロ (3) とを有し、当該ロクロ (3) は、傘が開かれる際に、留め具 (5) のキャッチ部 (53) と係合する肩部 (34) を備えている。キャッチ部 (53) から肩部 (34) を外すために押ボタン (4) を押し込むと、傘を閉じるためにロクロ (3) を降下し得る。

【0003】

その一方、傘を開くためにロクロ (3) を持ち上げるときに、傘の利用者 (あるいは作業者) が、彼のあるいは彼女の手によってロクロ (3) を握って、押ボタン (4) を不注意にも同時に内部へ押し込む虞がある。このような場合には、ロクロ (3) の肩部 (34) とキャッチ部 (53) との係合が阻害されてしまい、傘を開いておくことができなくなってしまう。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

解決しようとする問題点は、傘を開くためにロクロを持ち上げるときに、傘を開いておくことができなくなる事態が生じ得る点である。

【0005】

本考案は、確実に作動し得る傘を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本考案は、以下を含んでいる傘の提供を目的とする。本考案に係る傘は、中棒と、中棒のトップ部に形成された上部ノッチおよび中棒のまわりに配置されたガイドスリーブ上に摺動可能に保持されたロクロ (runner、ランナー) のそれぞれにピボット式に固定された骨アセンブリと、を含む。ガイドスリーブは、弾性を有する突出部が当該スリーブ上に一体的に形成され、ロクロは、傘を開くために弾性を有する突出部と係合するために当該ロクロに形成されたソケットを有する。傘を閉じるためにロクロを降下するとき、ガイドスリーブ上の弾性を有する突出部からロクロを外すため、弾性を有する突出部を内方に押すために、ロクロは、ソケットから上方かつ内向きに傾斜している傾斜部を有する。これによって、従来の傘のスプリング式の留め具を内方に押し下げることによる横方向への押し下げ動作を省略し、傘を閉じるための安全で、速く、人間工学的な動作を高めるようにしてある。

【0007】

上記目的を達成するための請求項 1 に記載の考案は、縦軸を定める中棒と、ロクロと、前記中棒にピボット式に連結されるとともに前記ロクロにピボット式に連結される骨アセンブリと、を有する傘であって、

前記中棒は、当該中棒のトップ部の上部ノッチに固定されるとともに前記中棒の周りに配置されるガイドスリーブを有し、前記ロクロは、前記ガイドスリーブ上にスライド自在に取り付けられ、

前記ガイドスリーブは、当該ガイドスリーブ上に形成される弾性突出部を有し、

前記ロクロは、当該ロクロ内に凹所を形成してなるソケットと、前記中棒の前記縦軸に向けて前記ソケットから上方へ傾けられた傾斜部とを有してなり、

前記ガイドスリーブ上の前記弾性突出部と前記ロクロの前記ソケットとが係合すると、傘を開いておくために前記ロクロが前記ガイドスリーブ上に安定して係合し、

前記ロクロを下方へ引き下げると、前記ガイドスリーブ上の前記弾性突出部から前記ロクロの前記ソケットを外すために、前記ロクロの前記傾斜部が前記縦軸に向けて内方に前記弾性突出部を押すことが許容されて、前記ロクロが傘を閉じるために降下してなる傘である。

【考案の効果】

【0008】

本考案の傘によれば、傘を開くためにロクロを持ち上げるとき、ロクロは、傘を安定して開くために確実に弾性突出部に係合される。したがって、押しボタン式タイプのロクロの場合に伴う従来の傘の欠点が改善され、確実に作動し得る傘を提供できる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0009】

図1～図5に示すように、本考案の実施形態に係る傘は、中棒（central shaft）1と、中棒1のトップ部にピボット式に固定され傘地を固定するための骨アセンブリ2と、ロクロ（あるいは下ロクロ（runner））3とを有する。この傘は、図面に示されるように、三段の折り畳み式の傘である。但し、傘を折り畳む段数は、本考案においては限定されない。

10

【0010】

中棒1は、入れ子式に相互に連結自在となった上層管12、中層管13および下層管14を有する。中棒1はさらに、傘を閉じるときに引っ込められて折り畳まれるときに、上層管12、中層管13および下層管14の周りに配置されるガイドスリーブ11を有する。ガイドスリーブ11および上層管12の両者は、骨アセンブリ2の上部ノッチ20に固定されるそれらの上端部を有する。

【0011】

骨アセンブリ2は、上部ノッチ20にピボット式に固定される親骨（top rib）21と、ロクロ3にピボット式に連結される内方部および親骨21の外方部にピボット式に連結される中間部を備える受骨（stretch rib）22と、受骨22の外方部にピボット式に連結されるとともに連結骨（connecting rib）24を介して親骨21にピボット式に連結される内方部を備える中間骨（intermediate rib）23と、中間骨23にピボット式に連結されるテール骨（tail rib）25とを有する。

20

【0012】

ガイドスリーブ11および上層管12は、それらの間に、傘を閉じるときに中層管13および下層管14を受け入れるための環状の窓Sを定める。スリーブ11の上端部11uは、上部ノッチ20に固定される。

【0013】

ガイドスリーブ11は、突出部111の部分的な輪郭に沿ってスリーブ11にスリット112をカットすることによって、弾性を有する突出部111が当該スリーブ11上に一体的に形成され得る。弾性突出部111は、通常、中棒1の縦軸Xから外方に向けて突き出て、ロクロ3内に凹所を形成してなるソケット330に係合している。図3に示すように、弾性突出部111は、ロクロ3によって押されたときに、スリーブ11と上層管12との間の窓Sの中に内方に押し下げられ得る。

30

【0014】

ガイドスリーブ11は、プラスチック材料あるいは他の適切な材料から作ることができる。弾性突出部111は、下部と、上部とを備える。弾性突出部111の下部は、傘を開く（図4の状態から図1の状態）ためにロクロ3を上げるときに、突出部111がロクロのソケット330と係合することを許容するように、ロクロ3の中央リング320によって内方へ押される傾斜面に形成されている。また、弾性突出部111の上部は、傘を開いたときに、ロクロ3内に凹所を作るようなソケット330に係合される直角あるいは曲げられた部分に形成されている。

40

【0015】

ロクロ3は、シリンダ部31と、フェルール（ferrule）32と、円柱状カップリング33とを有する。シリンダ部31は、ガイドスリーブ11にスライド自在に連結する中央開口310を有する。フェルール32は、シリンダ部31の上部に形成され、骨アセンブリ2の受骨22をピボット式に連結する。円柱状カップリング33は、シリンダ部31にスライド自在に連結するとともにシリンダ部31の周りに配置され、傘を開くときにガイドスリーブ11上に形成された弾性突出部111に係合するために当該円柱状カッ

50

プリング 3 3 内に凹所を形成してなるソケット 3 3 0 を有する。フェルール 3 2 は、中央開口 3 1 0 の周りに配置されガイドスリーブ 1 1 にスライド自在に連結する中央リング 3 2 0 を有する。したがって、傘を開くためにロクロ 3 を持ち上げると、中央リング 3 2 0 が弾性突出部 1 1 1 を押し下げ、フェルール 3 2 が突出部 1 1 1 を通り過ぎることが許容され、それから、突出部 1 1 1 がロクロ 3 のソケット 3 3 0 と係合するように外方に弾性的に突き出るであろう。これにより、傘を安定して開いておくために、突出部 1 1 1 の上にロクロ 3 がロックされる。

【0016】

シリンダ部 3 1 は、円柱状溝 3 1 2 と、底部フランジ 3 1 1 と、スロット 3 1 3 とが形成されている。円柱状溝 3 1 2 は、当該円柱状溝 3 1 2 内に円柱状カップリング 3 3 をスライド自在に連結する。底部フランジ 3 1 1 は、シリンダ部 3 1 の底部に形成され、円柱状カップリング 3 3 がシリンダ部 3 1 から下方に脱落することがないように当該円柱状カップリング 3 3 の移動を制限している。スロット 3 1 3 は、シリンダ部 3 1 を貫通して切開され、傘を開くと、弾性突出部 1 1 1 がガイドスリーブ 1 1 から外方に突き出て、ロクロ 3 の円柱状カップリング 3 3 内に凹所を形成してなるソケット 3 3 0 と係合する（図 2 参照）。 10

【0017】

円柱状カップリング 3 3 は、内方拡張部 3 3 2 と、ソケット 3 3 0 とを有する。内方拡張部 3 3 2 は、カップリング 3 3 の内壁に円周上に形成され、シリンダ部 3 1 の円柱状溝 3 1 2 にスライド自在に係合する。ソケット 3 3 0 は、内方拡張部 3 3 2 と傾斜部 3 3 1 との間で、カップリング 3 3 内に凹所を形成してなる。傾斜部 3 3 1 は、中棒 1 の縦軸 X の方に向けて上方かつ内方へと傾いており、傘を閉じる（図 2 の状態から図 3 の状態）ためにロクロ 3 を降下するとき、弾性突出部 1 1 1 からソケット 3 3 0 を外すために弾性突出部 1 1 1 を内方へ押す。内方拡張部 3 3 2 は、シリンダ部 3 1 の底部フランジ 3 1 1 によって下方への移動が制限され（図 3）、傘を閉じるためにロクロ 3 を降下するとき、シリンダ部 3 1 から円柱状カップリング 3 3 が分離することを防止する。 20

【0018】

ガイドスリーブ 1 1 は、上層管 1 2 の長さのような中棒 1 のそれぞれの管の長さにほぼ等しい長さを有する。ガイドスリーブ 1 1 は、その下部に形成された下部弾性突出部 1 1 3 を有する。下部弾性突出部 1 1 3 は、図 4 および図 5 に示されるように傘を閉じるためにロクロ 3 を降下するとき、カップリング 3 3 内に形成された内方拡張部 3 3 2 と係合する。 30

【0019】

目的を単純化するために下部弾性突出部 1 1 3 を省略することができ、本考案においては限定されない。

【0020】

下部弾性突出部 1 1 3 はまた、下部突出部 1 1 3 の輪郭に沿ってスリーブ 1 1 にスリット 1 1 4 をカットすることによって、ガイドスリーブ 1 1 に一体的に形成される。

【0021】

傘を閉じる際、中層管 1 3 および下層管 1 4 は、ガイドスリーブ 1 1 と上層管 1 2 との間のスロット S 内に引っ込められ受け入れられる。 40

【0022】

図 6 ～図 1 2 に示すように、本考案の他の好ましい実施形態には、上述したガイドスリーブ 1 1 を短くしたものが開示される。

【0023】

図 6 に示される短くされたガイドスリーブ 1 1 は、当該スリーブ 1 1 に形成された弾性突出部 1 1 1 が、傘を開くためにロクロ 3 内のソケット 3 3 0 に係合することができるのに十分な長さを有する。短くされたガイドスリーブ 1 1 は、当該ガイドスリーブ 1 1 の下部に形成されるとともに縦軸 X に向けて下方へテーパを付けられた下部ガイド部分 1 1 g を有し、図 9 の状態から図 6 の状態に傘を開くためにロクロ 3 を持ち上げるときに、ロク 50

ロクロ 3 が突出部 1 1 1 に係合されるようにガイド部分 1 1 g を乗り越えて円滑に通るようになっている。

【0024】

図 10 に示すように、ガイドスリーブ 1 1 に形成された下部ガイド部分 1 1 g は、傘を開くために持ち上げられるロクロ 3 を円滑にガイドするために、縦軸 X と第 1 の鋭角 A をなして外挿的に交差するように、下方に向けてテーパが付けられている。ガイドスリーブ 1 1 はまた、ガイドスリーブ 1 1 の底部に形成されるとともに縦軸 X と第 2 の鋭角 B をなして外挿的に交差するように上方に向けてテーパが付けられているテーパ状底リム 1 1 b を有する。底リム 1 1 b は、上層管 1 2 の外側管表面に近接あるいは弾性的に接触する状態にある。ガイドスリーブ 1 1 は、下部ガイド部分 1 1 g に切り欠かれた多数のカッティングスリット 1 1 s を有する。それによって、上層管 1 2 とガイドスリーブ 1 1 との間のスロット S の中に中層管 1 3 および下層管 1 4 を引っ込ませる際、中層管 1 3 あるいは下層管 1 4 は、複数のカッティングスリット 1 1 s を形成することに起因する「チャック」のように作用するガイドスリーブ 1 1 におけるわずかに膨張している下部ガイド部分 1 1 g によって、スロット S の中に受け入れられるように、テーパの付いた底リム 1 1 b によって円滑にガイドされることになる（図 1 1 および図 1 2 参照）。

10

【0025】

図 6 および図 7 の状態から図 8 の状態に傘を閉じる際、ロクロ 3 は、中棒 1 に向けて骨アセンブリ 2 を引っ込ませるために（図 9）、弾性突出部 1 1 1 からソケット 3 3 0 を外すために降下される。スロット S の中に中層管 1 3、下層管 1 4 を引っ込ませた後（図 1 1）、それから、傘は完全に折り畳まれるだろう。

20

【0026】

カップリング 3 3 を完全に握って傘を開くためにロクロ 3 を持ち上げることでさえ、ロクロ 3 は、傘を安定して開くために、間違いなく確実に突出部 1 1 1 に係合される。したがって、押しボタン式タイプのロクロの場合に伴う従来の傘の欠点が改善される。

【0027】

ロクロ 3 をまさに降下して傘を閉じるとき、いかなる押し下げ動作をも必要とすることなく、例えば、従来の傘の中棒に弾性的に形成されたスプリング式の留め具からロクロを外すための横の方への押しボタン動作を必要とすることなく、迅速に人間工学的に傘を閉じることができる。弾性突出部 1 1 1 は、その製造を単純化し費用を低くするために、ガイドスリーブ 1 1 に直接に一体的に形成されている。

30

【0028】

図 1 3 に示すように、中棒 1 は、単一の中央ポストあるいは中央管に改変でき、短くされたガイドスリーブ 1 1 は、中央管の周りに直接配置されている。骨アセンブリ 2 はまた、単一ないし一段の折り畳みアセンブリに改変でき、上部ノッチ 2 0 にピボット式に連結された親骨 2 1 と、ロクロ 3 にピボット式に連結されるとともに親骨 2 1 に連結される受骨 2 2 とを有する。弾性突出部 1 1 1 がロクロ 3 内のソケット 3 3 0 に係合すると、傘は、図 1 3 に示されるように安定して開かれる。傘を閉じるために降下されたロクロ 3 を係合するために、中棒 1 の下部に、下側の弾性突出部（図示せず）を追加して設けることもできる。

40

【0029】

本考案は、上述した実施形態に限定されるものではなく、本考案の趣旨および範囲から逸脱することなく適宜改変し得る。

【図面の簡単な説明】

【0030】

【図 1】本考案の実施形態に係る傘が広げられた状態を一部断面で示す図である。

【図 2】ガイドスリーブとロクロとの係合状態を示す、図 1 の部分拡大断面図である。

【図 3】傘を閉じるためにロクロを降下させている状態を示す断面図である。

【図 4】折り畳まれた骨アセンブリと、傘を閉じたときにロクロに係合するためにガイドスリーブ上に形成された下部弾性突出部とを備える傘を一部断面で示す図である。

50

【図 5】スリーブの下部弾性突出部とロクロとの係合を示す、図 4 の拡大断面図である。

【図 6】本考案の他の実施形態に係る傘が広げられた状態を一部断面で示す図である。

【図 7】図 6 の部分拡大断面図である。

【図 8】図 7 の状態から傘を閉じるためにロクロを降下させている状態を示す断面図である。

【図 9】図 6 の状態から骨アセンブリを折り畳むことによって閉じられた傘を一部断面で示す図である。

【図 10】図 6 に示される他の実施形態のガイドスリーブの下部ガイド部分の構造を示す断面図である。

【図 11】図 9 の状態から中棒の管を引っ込ませることによって閉じられた傘を一部断面で示す図である。 10

【図 12】図 11 の部分拡大断面図である。

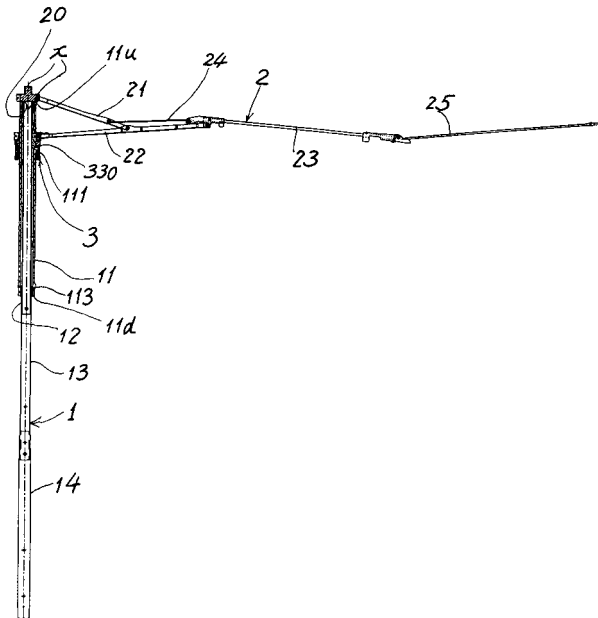
【図 13】本考案のさらに他の実施形態に係る傘が広げられた状態を一部断面で示す図である。

【符号の説明】

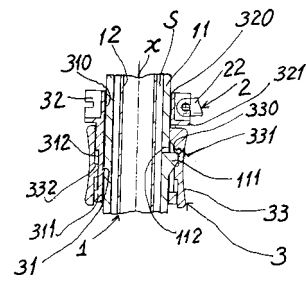
【0031】

1	中棒、	
11	ガイドスリーブ、	
111	弾性突出部、	
112	スリット、	20
113	下部弾性突出部、	
114	スリット、	
11b	テーパ状底リム、	
11g	下部ガイド部分、	
11s	カッティングスリット、	
12	上層管、	
13	中層管、	
14	下層管、	
2	骨アセンブリ、	
20	上部ノッチ、	30
21	親骨、	
22	受骨、	
3	ロクロ、	
31	シリンダ部、	
310	中央開口、	
311	底部フランジ、	
312	円柱状溝、	
313	スロット、	
32	フェルール、	
320	中央リング、	40
33	円柱状カップリング、	
330	ソケット、	
331	傾斜部、	
332	内方拡張部、	
A	第 1 の鋭角、	
B	第 2 の鋭角、	
S	窓、スロット、	
X	縦軸。	

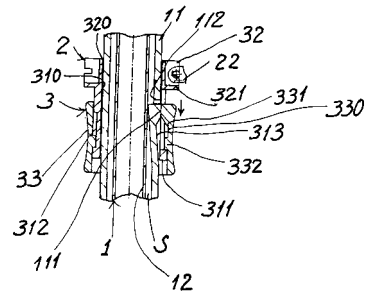
【図 1】



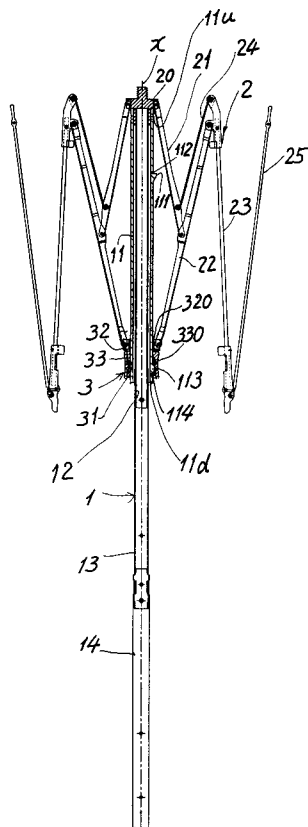
【図 2】



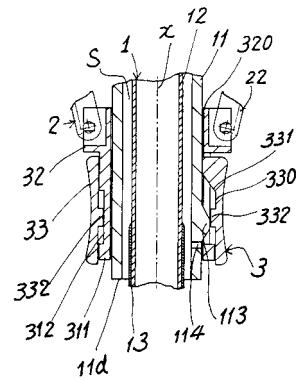
【図 3】



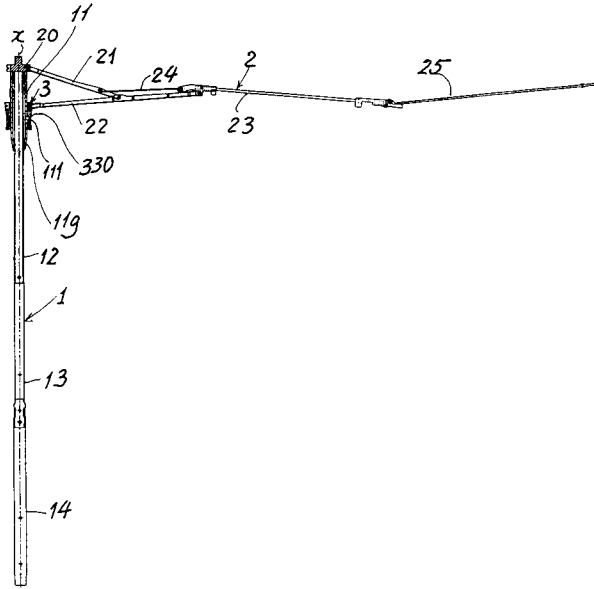
【図 4】



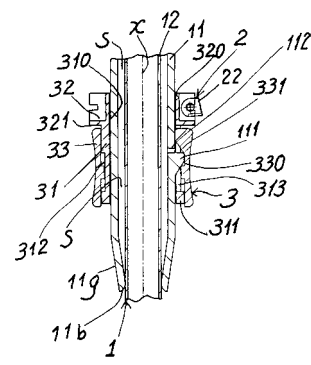
【図 5】



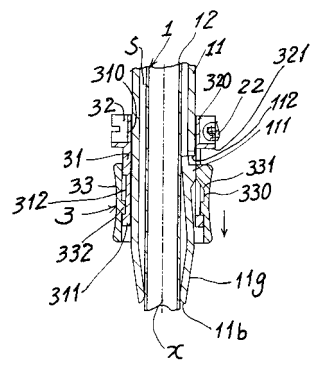
【図 6】



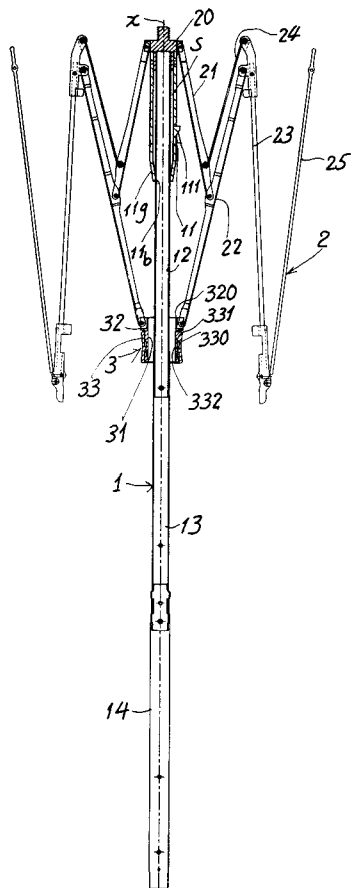
【図 7】



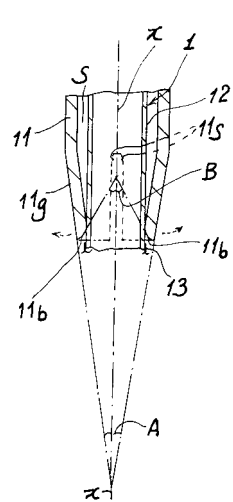
【図 8】



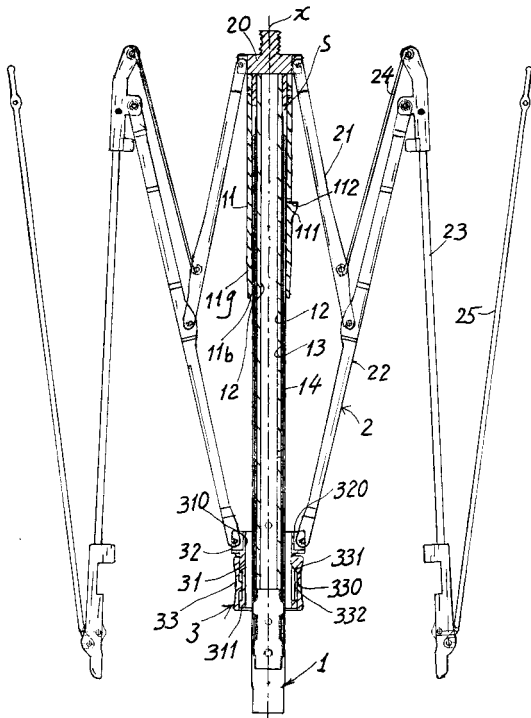
【図 9】



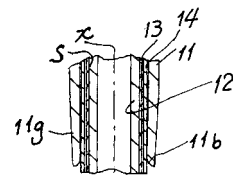
【図 10】



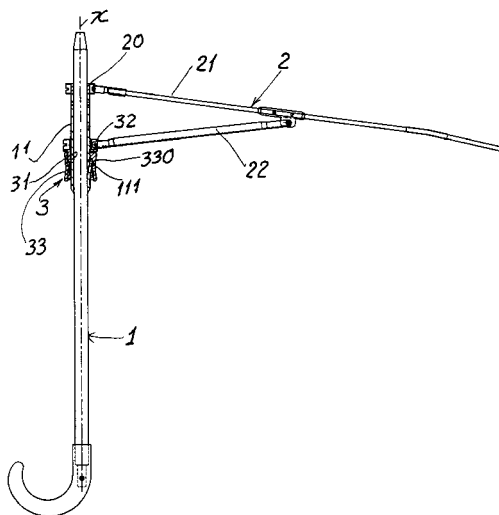
【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】



フロントページの続き

(74)代理人 100130971

弁理士 都祭 正則

(72)考案者 林 俊 光

台湾台北縣五股▲きょう▼成泰路三段16號

(72)考案者 張 榮 仁

台湾台北縣五股▲きょう▼成泰路三段16號